

たがじょう

発行日／平成27年2月27日

発行／多賀城高等学校

PTA広報委員会

宮城県多賀城市

笠神2丁目17番1号

TEL 022-366-1225

FAX 022-366-1226

印刷／㈱工陽社 塩竈市

TEL 022-365-1151



- 卒業に寄せて..... 2
- 三年間の思い出..... 2～3
- 多高祭、体育祭..... 4～5
- 修学旅行..... 6
- 平成26年度進路情報、芸術鑑賞会..... 7
- 青春の1ページ、防災教育、広報委員、編集後記..... 8

たがじょう
の
たがじょう
の
たがじょう

卒業に寄せて

三学年委員長

手代木 由紀子

今年度の三学年委員長を務めさせて頂きました。皆様の多大なるご協力と先生方のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

子ども達が多賀城高校に入学したのは、天気の良い早春にしては暖かな日でした。月日の流れるのは、本当に早いものです。高校時代は、義務教育から開放され、自由を謳歌し、また責任を知る貴重な時と思います。子ども達は高校生活を楽しんででしょうか。

高村光太郎は、「道程」という詩の最後の方で、「僕の前に道はない。僕の後ろに道は出来る」と言いました。そう君たちの前に道はなく、道は君たちが自ら創り出すものなのです。大いに悩み、大いに迷い、そして大いに友と語ったでしょうか。私は、少し離れた斜め後ろから子供たちの姿を見つつ、自分の高校時代を懐かしんだりして、役員を楽しめたと思います。今は、

そういう機会を与えて頂いたことに只々心から感謝致しております。

三年間の思い出

楽しい思い出

三年一組 鈴木 みか

私は三年間の高校生活で、数え切れないくらいたくさん思い出ができました。文化祭などの学校行事、修学旅行、部活、普段の学校生活、すべて忘れられない思い出です。特に修学旅行は高校に入ってから



から一番楽しみにしていた行事でした。京都に行くのは初めてで、友達と過ごした四日間はとても楽しく、常に笑いが絶えませんでした。

高校三年間をたくさん楽しい思い出で埋めることができたのは、いつも一緒に笑って過ごしてくれた友達のおかげだと思います。

楽しい思い出を作ってくれた友達に感謝し、大切にしていきたいです。

多賀城高校で

過ごした三年間

三年二組 菊地 歩実香

私はこの三年間、泣いたり、迷ったりすることもありましたが、笑っていた方が多かったと思います。高校生になってたくさんの人と関わり、経験してきましたが、そのどれもが私にとって宝物になりました。その中でも、行事や何気ない日常生活が私にとって一番の思い出です。暑い日も寒い日も一生懸命練習した弓道。初関西ということで初日からはいしゃいだ修学旅行、全力で挑んだ体育祭や模擬店をやった多高祭など。こちらが



楽しめたのも友達やクラスの人、先生方がいてこそだと思います。今思うと、本当に充実した三年間でした。

最後に、いつも私を支えてくれた友達、支えてくださった先生方、家族に感謝の気持ちでいっぱい입니다。

多高での三年間

三年三組 高橋 宇紗

多高で過ごした三年間を振り返ると、さまざまなことが思い出されます。その中でも、特に思い出に残っていることは、修学旅行と三年生の時の多高祭です。

修学旅行では、初めて訪れた関西の地で、宮城とは異なる文化に触れることができました。

した。自主研修の時、みんなで着物を着て伏見稲荷大社に行き、その時に外国の方にくさん声を掛けられ、一緒に写真を撮った事が一番印象に残っています。

また、三年生の時の多高祭では、三組のみんなでアイディアを出し合い、自分たちの力で作り上げた模擬店にたくさんの方が来てくれました。目標売り上げを達成し、クラス全員で喜びを分かち合った時のことは今でも忘れません。私にとってのこの三年間は、とてもキラキラしていて、あつという間の三年間でした。高校生活を多高で過ごすことができ、また、みんなと過ごすことができ本当に本当に良かったです！



C'est mes souvenirs de

三年四組 岡 優香



三年間の高校生活を振り返ると、たくさんの方が思い出されます。部活や行事はもうありませんが、普段の学校生活一日一日を楽しく過ごすことができました。それは私が先輩方・後輩達・先生方そして同級生に恵まれていたからだと強く思っています。一年生では高校生活に慣れるのに必死だったのを覚えています。二年生では、大好きな二年四組で修学旅行に行けてとても幸せでした。そして三年生はクラスTシャツから始まり、

球技大会準優勝、体育祭総合優勝などといったクラスの団結力が試される場で最高の思い出をつくることができました。多賀城高校でなかったら、こんなに楽しく過ごせなかったと思います。本当にありがとうございました。

三年間の思い出をフナタに

三年五組 佐藤 大和

多賀城高校に入学してたくさんの方に出会えました。その中からいくつかの思い出をランキング形式(ベスト3)でお伝えします。第3位は、芸術鑑賞会でのハムレットです。私は劇が大好きでハムレットを見るのができて、とても



も感動しました。劇が終わった後は、心の中で一人スタンディングオベーションでした。第2位は部活動。私はラグビー部に所属していました。あまり良い成績を残すことはできなかったけど、皆と日々練習したことは私の財産です。そして、堂々の第1位は、修学旅行です。風情ある京都と大阪に行けたこと、楽しかったUSJ。寝坊して朝食が食べられなかったことは、良い思い出です。三年間笑いの耐えない日々ばかりで皆に感謝です。

実りのあった三年間

三年六組 青山 潤平

期待と不安を胸にこの多賀城高校に入学して、もう二年がたち、卒業の季節を迎えます。初めてばかりだった高校生活、文化祭があったり球技大会があったり、部長を務めたり大きな大会に出たり、本当にいろいろなことがあって楽しかった反面、辛くて大変なことたくさんありました。ですが、素敵な友人、先輩・後輩、先生方に出会えたからこそ辛く大変だったことも乗



り越えることができました。そして何よりも、保護者の方々の支えによって今の私達はいれると思います。たくさんの方に出会えた人、今まで支えてくれた人全員に感謝をしてこの学び舎を旅立とうと思います。将来の糧となるような実りのある三年間、本当にありがとうございました。

多賀城高校での三年間

三年七組 岡部 匡希

私が過ごした多賀城高校での三年間は、共に道を歩んできた仲間たちとの絆でした。私はこの三年間、部活の兼部や生徒会など、多忙な日々を

全力で過ごしてきました。どんなにつらい時でも、毎日学校に行きたいと思えたのは、周りの励ましてくれた仲間の存在があったからです。兼部を始めて一年半、ちょうど副会長になり、生徒会の仕事を始めた頃、あまりの忙しさに体調を崩すことが多くありました。そんな時、クラスの友人や部活の仲間たちが、からかいながらも力を借してくれました。仲間たちの力を借りて、つらい時期を乗り越えることで、仲間との絆と、どんなことにも全力を尽くすことの大切さを学び、人間的にも大きく成長することができました。



多高祭



多高祭を振り返って

多高祭実行委員

三年三組 木村 映吉

三年間にとつて最後となった多高祭から、もう二カ月が経ち、クラスや三年生全体の雰囲気は、完全に受験モードになりました。今、二カ月前の事を思い出すと、遠い昔のような、昨日の事のような、とても不思議な感じがします。今年の多高祭では、今までと違う目線で楽しみたいと思い、多高祭実行委員に入りました。ステージ発表についての台本作りや、ミス・ミスターコンテストの企画運営など、他にも様々な担当に分かれ、時に実行委員以外の方にも手伝ってもらい、本番まで、多高生一丸となつて用意しました。本番当日は、ちょっとしたハプニングなどもあり、一筋縄では行きませんでした。しかし、それも文化祭らしく、全てひっくり返して、最高の思い出が生まれました。

多高祭を機に三行事は、次の学年にバトンタッチされます。先輩として、しっかり手本となれたか少し心配ですが、次の学年がさらに多高を盛り上げてくれると信じてます。

体育祭

笑顔輝く多高生

体育祭実行委員長

三年一組 星 晴香

今年度の体育祭は例年に比べすべての競技が時間通りに進み、実行委員の皆さんや先生方には大変感謝しています。今回、初めての競技となった「6人7脚」は一年から三年生が足を揃え、声を合わせて走り、とても見ごたえのある競技でした。体育祭といったら、「学年リレー」どの学年も念入りに作戦をたてて白熱の戦いとなりました。学年競技ともなると、応援は学年の壁を越えて全員で応援します。そして、「ベストメンバールレー」はクラス代表の生徒がクラスのために一生懸命走っている姿がとてまかつこよかったです。玉入れや大縄跳びなどは、大人数での参加なので、どのクラスも団結力があってみんなが楽しむことができました。

体育祭実行委員長として私が感じたことは、体育祭は多高生全員を一つにしてくれる最高の行事だと思いました。私は多高生のたくさんの笑顔を見たことをとても嬉しく思い、多高生としての誇りを感じました。



最高の思い出

修学旅行実行委員長

二年六組 阿部 拓人

修学旅行を振り返ってみるとあつという間に終わってしまったなあと思います。それはたぶん、本当に楽しいことは時間が短く感じるのと同じことだと思います。

自分自身一番楽しかったのはやはりUSJです。USJではいろんな乗り物に乗れたということもありますが、いろんな人と楽しめたこともあります。また、ホテルで仲の良い人たちと夜遅くまで遊んで、わいわいしたのも思い出の一つになったと思います。

加えて私は感じたことがあります。それは京都と宮城は全然違うと思いました。私は話しかけただけ違うと思っていたのですが、実際は駅も雰囲気も人の多さなどたくさん違いがありました。その他にも書ききれないほどたくさんの方が、高校行事で一番と言えるほど楽しく、思い出に残る最高の修学旅行だったと思います。



修学旅行

教諭 矢部 鋼 治

私の人格形成において多大な影響を与えたのは、小学三年生秋から高校卒業までを過ごした広島でのサッカー生活だったと思う。サッカーを始めた理由から書くと長くなるので割愛するが、中学からサッカー部に入部し、同級生に譲られたおさがりのスパイクを履いたときの感動を、今でも鮮明に覚えている。サッカー部の練習を途中で早退して塾に行くことが多く、熱心に、とはお世辞にも言えない日々だったが、そんな

な私に顧問の先生や他の部員は優しく普通に接してくれ、甘やかされた生温い中学時代であった。

高校に入學するとその生温い生活は一変した。深く考えることなく、伝統校でしかもサッカーの強豪校に入學、入部してしまったのだ。最初に二年生の先輩から生活全般の説明を受けたが、一年生に許される言葉は「シャ

(日本語訳：はい)」「シタ(日本語訳：ありがとう)」「さいました」「チヨース(日本語訳：おはようございます)・こんにちば・こんばんは・さようなら」の3つだけ。廊下の端と端ほど離れた遙か彼方でも先輩や先生を見かけたら大声で「チヨース」。朝は六時三〇分に登校して先輩の朝練のための準備から始まり、昼休みはグラウンドの整備、放課後はいち早くグラウンドに出て準備、全体練習の終了は十八時頃だが、夜は定時制の授業の邪魔にならないように自主練、結局帰

シリーズ 青春の1ページ



宅は二十一時を過ぎていた。さらに、全体練習の後には、必ず何らかの理由で二年生の先輩から「二年 集合」の号令があり、説教の後「〇〇m×〇本の「走り」があった。挨拶がなかったからと「二年 集合」、先輩がグラウンドで小豆粒程度の石を見つけると「二年 集合」、時間に数秒でも遅れると「二年 集合」、グラウンドで歩いている一年生がいると「二年 集合」、夏に水を撒けと言われて水を撒いたら手のひらの水溜りができて「一年 集合」、結局毎日「一年 集合」。当時は逃げ出したいくらいにキツかった。

しかし、大人になって思い返すと、説教は受けたが体罰や暴行などは一切なく、集合をかけた二年生は説教後に一年生と一緒に走っていた。おかげで、チーム全員の持久力と精神力は向上した。石を拾って水溜りができないように水を撒いたおかげでスライディングしても怪我をしなかった。

顧問の先生(監督)からは、怒られた記憶はなく、サッカーに関するアドバイスだけだった。「二年 集合」が、私のサッカーの原点だとも思える。

おかげさまで、高校を卒業してから一〇年経った頃から、JFLの試合では2つ下の後輩がプレーヤーで私が副審を務めた。J2の試合では1つ上の先輩が副審で私が第4の審判を務めた。2つ下の後輩が岡山の高校生チームの監督として宮城に遠征に來たり、そして、1つ下の先輩が震災後に家族で宮城を訪れたり、幸せな時間を過ごしています。

防災教育

災害と人

一年三組

佐々木 惲乃・佐藤 遥

京都大学防災研究所・矢森克也教授の特別授業を一年三組の生徒が受けました。

今回の授業で行った「YES」「NO」などで答える災害対応カードゲームにおいて、様々な事を感じました。もし、私たちが災害に遭って究極の選択を迫られた時、どのように行動すべきか、そしてこれからのように人と関わっていけば良いのかを考えさせられました。

「被災した病院で入院患者を移送中、報道カメラマンが撮影しようとした。撮影させるか」という議題で、私たちの意見では「患者さんのプライバシーを守りたいが、記録を残すことは大切だ」でした。けれど、大人の方の意見では、「災害がおきる前から入院していた患者さんだから、報道するのはよくない」とのことでした。私たちと大人の方の意見は視点が違っていることを感じさせられました。

私たちはこの授業を踏まえて、今の私たちには災害の知識が浅いということを実感しました。ですから、いつどんな時災害が起きても対応できるように備えていきたいです。



平成26年度の広報委員

- 1 学年 斎藤美保・前田美紀・阿部真喜子
- 2 学年 相馬真由美・齋藤昌子
佐藤弘恵・佐々木ヒロミ
清水たみこ・日下美江
橋本裕子
- 3 学年 村井真知子・齊藤千秋



編集後記

広報委員

担当の先生方の協力と委員長さんのリーダーシップのおかげで楽しく仲良く役員会をしながら会報ができました。役員の方々と共に多高祭、芸術鑑賞などに参加でき、とても良い思い出になりました。役員としての三年間、有意義な時を過ごせたと思います。最後に、これからも役員活動がますます活発になっていくことを願っています。